



# 「下村満子の生き方塾」ニュース

【号外】2020.5

—X期修了・XI期入塾式速報—



## コロナにくじけず 決意も新たに 初のウェブ開催!



コロナ問題をめぐって、白熱した議論を展開する塾長と田原さん

### ● ITに強い若い塾生の尽力で、成功裡に終える

「下村満子の生き方塾」は、2020年4月26日、東京・神宮前の「あつまる」本社で第X期修了・XI期入塾式を開きました。新型コロナウイルス感染に伴う緊急事態宣言が全国に出されていることから、初のウェブ形式による開催となりました。一時は修了・入塾式の開催が危ぶまれましたが、山本亮二郎さんや「あつまる」の亀井愛美さん、杉村美智子さんらの尽力で、無事実現できました。初の試みにもかかわらず、塾生、応援団、オブザーバーらおよそ

100人が参加し、コロナウイルスにくじけず激動の時代を生き抜くことを誓い合いました。高齢者ほどコロナウイルスに感染しやすいといわれる中、田原総一郎さんが応援団講義を引き受け、田原さんと下村塾長との白熱したやりとりは、エキサイティングなものでした。この日の模様はYouTubeにアップされています。

(文責・皆川猛、写真・山本亮二郎、亀井愛美、杉村美香子)

## ●困難な時こそ、頑張る「生き方塾」

下村塾長は冒頭、Ⅺ期のスタートにあたっての基本的な考えを、次のように説明しました。

●コロナウィルスの感染拡大で、安全のため、半年間、休塾することにしましたが、もう少し細かく言うと、今日4月26日はⅩ期の修了式とⅪ期の入塾式を行っていますから、9月までの5か月休塾ということになります。ですから第11期はスタートしたということです。特殊な事情がない限り、10月に再開するつもりです。

●3月29日には、福島県郡山市でⅩ期最後の勉強会を、エネルギー問題に絞った公開講座にするべく準備を進めてきましたが、コロナ感染を防ぐために、残念ながら断念しました。代わりに、その日は東京の「あつまる」新社屋で、出欠をカウントしない特別勉強会を開きました。

●その後、緊急事態宣言が出されたので、幾度か世話を開き、Ⅺ期はどうすればいいのか、話し合ってきました。この結果、当初は、今日4月26日は、会場参加とウェブ参加の二本立てによる開催を考えたのですが、緊急事態宣言で三密状態は避けなければならないことから、4月の修了・入塾式は取りやめるしかないかな、と覚悟を決めました。

●しかし、田原さんの話はぜひ聞きたいという声は強く、さらに田原さんも、こんな事態だからこそ「生き方塾」の皆さんが望むなら、喜んで話をしたいという熱意を示して下さい、どうすれば開催できるかを模索しました。

## ●前向き発想で、コロナ禍の克服を

●「ピンチの時こそチャンス」とは、盛和塾の稲盛塾長が好んで口にされた言葉ですが、この言葉通り、若い塾生達のアイデアで、本日のような展開になりました。これはいい体験で、今後ともITを駆使した勉強会はあってもいいと考えるいいチャンスになりました。

●会場や機器類を設定、操作してくれた亀井、杉村、山本の三塾生には頭が下がる思いです。今日は塾生、応援団、オプザーバーらおよそ100人が参加しています。

●この塾は、2011年4月に開塾したのですが、あの時は東日本大震災から1か月後の、放射能という見えない敵との戦いの中でスタートしました。そして今は、コロナウイルスという見えない敵に襲われています。この塾には困難の時こそ頑張るDNAが備わっています。コロナウイルスは脅威ですが、今こそ、この塾の精神である「命とは何か、生きるとは何か、人は何のために生きるのか」を、問い直す必要があります。

●5か月後に再開できるかは、コロナの状態にもよりますが、その第一条件は、緊急事態宣言が解除されていること。休塾だからと言って5か月間遊んでいるわけではありません。



「心の塾」は開塾している、と塾長

3～4年前から山本塾生は、インターネット塾生制度考えるべきだと言ってきましたが、今回のウェブ参加、YouTubeへのアップで、ネット塾生制度ができることが分かりました。半年の猶予期間に、ネット塾生制度実現に向けて準備を進めます。

●コロナウイルス感染は人類にとって大きな試練ですが、この塾はポジティブ・シンキングを旨としていますから、コロナ禍を乗り越えて、新たなステージに入ろうとしているような気がします。

●9月いっぱい休塾と言いましたが、閉鎖するわけではありません。「生き方塾」は、ピラミッド型の集団、組織ではありません。私を中心にして、塾生全員がフラットに繋がっているネットワークです。休塾といっても、一か所に集まった勉強会は5か月休むということであり、私の「心の塾」はいつでもオープンにしています。塾生が、相談したことがあったり、私の話を聞きたいということがあれば、遠慮なく連絡してください。私と皆さんは常につながっています。メールアドレスは後で伊東事務局長がお知らせします。

●盛和塾は昨年末で解散し、盛和塾東京の「心を高める坐禅会」は、いったん解散した後、「生き方塾」の分科会になりました。坐禅会の開催はどうするのかについては、幹事と相談し決めたいと思っています。坐禅会は生き方塾生なら誰でも、いつでも入会できますので、皆さんの入会を歓迎します。事務局は休塾期間中でもやっていますから、何かあったら事務局へ、また、いろいろな連絡が事務局から行きますので、よろしくをお願いします。

## ●初動対応の遅れが、致命的

下村塾長は、XI期のスタートにあたって自分の思いを披露した後、「コロナ時代をどう生きるか」と題して、次のように話をしました。

●日本でコロナウイルスに注目が集まるようになったのは、クルーズ船ダイヤモンドプリンセス内で患者が発生、というニュースが報道された2月初めからです。しかし、それでもそれは対岸の火事のように受け止めていました。まさかこれほどまで感染が拡大するとは、誰も考えていませんでした。

●それにしても、日本のコロナへの対応は、全て後手後手です。しかも、右往左往するばかりで最悪の対応です。安倍政権、小池都政は、オリンピックに執着し、日本は安全と思わせるために、検査を抑えて感染の拡大を隠し続けて、オリンピック延期が決まってから、アタフタと火消しに回っていますが、時すでに遅し、です。加えて中国の習近平の訪日予定もありましたから、よけい感染拡大を隠したかったのです。この初動対応の遅れが致命的になって、今は命の問題になっているのです。緊急事態宣言も4月7日ですから、遅すぎました。

●皮肉ですが、この緊急事態宣言によって自宅にいる時間が長くなり、私は本を読む時間、坐禅する時間がこれまで以上に確保できるようになり、ある意味では充実しています。つまり、いま、私たち一人一人の生き方が問われているのです。

## ●ナンバーワンは何にもならない



ウェブ開催のための準備をする亀井さんと杉村さん

●アメリカはけた外れの軍事力、経済力、科学技術力、教育、医学のレベルは世界一、世界ナンバーワンの国を自称していますが、コロナウイルスに対しては、何もできない。ノーベル賞輩出も世界一なのに、科学はぶざまな失態をさらけ出しています。世界一のすべてが、何の役にも立っていないのです。これはイギリス、フランス、ドイツでもそうです。欧米をあ



「ピンチこそ、チャンス」と塾長

●アメリカでは、わずか1か月で30万人以上が感染して、何万人もの人が死んでいます。この事実は、いろいろなことを考えさせられます。明日から緊急事態宣言という前日、鳩山元総理夫妻と会食したのですが、鳩山さんはその1か月前、3月9日にアメリカから帰国したそうですが、当時のニューヨークは、全てが普段と変わりがなかったそうです。劇場もレストランも大繁盛して、夜遅くまで営業し、人通りも変わっていませんでした。そしてすぐに爆発的感染が起きました。ヨーロッパもそうでした。先進国ほどコロナウイルスにやられています。

がめ、その後追いをしてきた日本も同じです。一体これらは何なのだ、と私は大きな疑問に襲われています。コロナウイルスは、現代社会に、現代文明に、大きな問題提起をしているのです。

●トランプ大統領は、自分の失態の責任を転嫁するため、WHOを攻撃していますが、何か間違っています。アメリカは国民皆保険がなく、「貧乏人は死ぬ」の国ですから、当然と言えば当然の結果です。オバマ前大統領は、健康保険制度を作ろうとしましたが、トランプはそれを打ち壊すのにやっきです。コロナは、日本を含めて先進各国が築き上げてきた文明の脆弱性を見せつけています。ベトナムなど途上国のほうが、先進国ほどひどい状態になっていません。一体これはなぜなのか。

●ニューヨーク州のクオモ知事は、傑出した人物だと思います。ノーペーパーの演説は心を打つし、病院、施設に足を伸ばして現場で頑張っている人を励ます。ただ一つ誤りではないのかと感じるのは、コロナウイルスを「恐ろしい『けだもの!』」と表現し、戦ってやっつけると語っていることです。

●私は、コロナと戦って勝つことができますか、と言いたいです。コロナウイルスも一つの生命体です。コロナには、国境はありません。まさにグローバリゼーションが作り上げた脅威です。だからコロナから学ぶことは多い。「化け物」を作ったのは、実は人間なのだと言いたい。

# 「因果必然の法則」、コロナウイルス出現

●この塾は、私の背骨である仏教的というか、禅的な考え方を基本にしています。コロナを、禅的な視点で見れば、極めてシンプルです。因果必然の法則の結果、こうなっているのです。温暖化を含めて、今の地球上に表れている諸現象は、人間の行ってきたことの結果です。すべて人間が作ったのです。

●ジェームズ・ラブロックというイギリスの科学者は、「ガイヤの思想」を提唱しています。私はラブロック博士をインタビューしたことがあります。もう提唱されてから30年も経っていますが、彼の主張が全く正しいことが、今、証明されています。コロナウイルスの脅威を予想しています。地球は無生命の個体ではなく、空気、山、川、海、そして生きものなどすべてを包含する生命体であり、地球という大きな生命体の中で、人間も生きている。地球は生命体だから、病気になれば、回復力、自己治癒力を発揮する。温暖化は人間が発熱で病を治癒するのと同じようなものだというのです。

●地球は46億年前に誕生し、生命が生れたのは38億年前。人類が登場してからはたった20万年です。人類なんて、新参者なんです。地球に巨大隕石が衝突し、90%以上の種が死滅したことがありましたが、地球そのものはダメージを受けても、その後、自己治癒力を発揮して、回復しています。それほどまでに、地球の生命力は揺るぎないものです。すべての核兵器を爆発させれば、人類は死滅し、文明も失われますが、地球はもちます。

●しかし、人間は高慢にも、地球を支配できると勘違いしています。そして人間は地球を貪り、荒らし、続けています。欲望のために、自然を壊し、開発の名の下に、やりたい放題を続けています。地球に優しく、などと言いますが、これは人類のおごりでしかありません。人間は、地球という共同体の中で生きていることを忘れてしています。ウイルスを敵とみなし、退治しても、次にはまた新たなウイルスが登場します。前よりも強くなってです。

●DNAを操作するなど、自然の摂理に反した行為や人類の異常繁殖に対する地球の逆襲が、新型コロナウイルスの蔓延と言えるのかもしれませんが。イタリアのある作家は「科学的な証明より、人間が持っている「直感」の方が大切だ」と思う。直感的に、コロナは環境破壊が生んだ難民の一部だと思った。ウイルスが人間に侵入してきたのではなく、人間がウイルスを呼び寄せたのだ。人間がウイルスを巣から引っ張り出したのだ。なぜこういった状況になったのかを、人間は今こそ考えるべきだ。コロナが終息したとき、コロナ前の世界に戻りたいと思うのか。何を手放し、何を残すのか、未来の在り方を考えなければならない」と警告しています。



ウェブ参加の皆さん

●生物学者で遺伝子を研究している青山学院大の福岡伸一教授は、「ウイルスは絶対に撲滅できない。コロナの振る舞いを観察していると、利他的な存在だと思ってしまう。ウイルスを引き寄せているのは人間自身である。最も単純な生命の一つであるウイルスは、高等動物が登場して生まれた。ウイルスは、生物の進化に必要な存在で、ウイルスが進化を加速させている。だからこそ撲滅はできない」と説いています。

●こうしてみると、今こそ人間は、バランスの取れた生き方を模索しなくてはなりません。地球を支配する、自然を支配するという発想ではなく、地球から命をもらって生きているという考え方をすべきなのです。バランスが崩れ、地球が自己治癒力を発揮した時、人類は滅びるかもしれません。しかし、地球にとっては、人類の滅亡など、どうってことではない。新たな生命体が生まれるだけの話です。

●物新型コロナウイルスの脅威は、物質的文明のみを追求してきた人間に対して、これまでの「生き方」を改革せよ、という天からの警告であり、メッセージだと私には思えます。

●コロナは肉体だけでなく、心も蝕み、心の感染症も引き起こしています。他人を差別し排除する動きが顕在化しています。今、日本は負のスパイラルに陥っています。こんな時こそ、「命とは何か、生きるとは何か」を、この塾で、みんな一緒に考えましょう。いまこそ「生き方塾」の出番です。

事務局連絡

事務局はやってます

下村塾長の講話に引き続き、伊東優子事務局長は「塾をいつ再開すればいいのか、塾費はどうすればいいのか、合宿はやるのかやらないのか、オンラインによる勉強会は可能なのかなど、諸課題については、検討中。決まり次第連絡します。事務局はこれまで通り開いています」とウェブを通じて話し、下村塾長のメールアドレスを知らせました。

[mitsuko.shimomura@nifty.com](mailto:mitsuko.shimomura@nifty.com)

## コロナは、金もうけのグローバリズムが元凶

コロナウイルスは、高齢者ほど罹りやすいのですが、86歳になった田原さんは、下村塾長からの依頼だし、こんな時こそ今の状況を知ってほしいと、Webでなく、下村塾長と共に会場に来て、応援団講義をしました。田原さんの講義要約は次の通りです。

●今回のコロナ騒動は、もうけを追求し続けたグローバリズムが、最大の要因です。先進各国は、人件費の安い途上国に投資をしてモノを作らせ、利益を出しました。このため自国の製造業は空洞化し、労働者は失業しました。豊かになったのは、金融界拠点を置く人たちでした。途上国だった中国は、世界の工場として豊かになり、人件費が高騰したため、今はベトナム、タイ、カンボジア、バングラデッシュといった東南アジアの国々がかつての中国の役割を果たしています。豊かになった中国は世界に投資し、途上国に進出しています。

●その中国が今回のコロナウイルスの発生源です。日本もコロナ騒ぎが勃発するまでは、中国からの観光客収入で潤っていました。中国人は、ヨーロッパにも出かけていますから、そこでウイルス感染が始まり、医療制度がお粗末な国々で爆発的な感染を引き起こしてしまいました。

●コロナ騒ぎが出てから、世界はどう変わったか。まず一つは、グローバリズムの後退です。トランプは自国の労働者が貧しい点に目を付けて、中国を悪者に仕立て、「アメリカ・ファースト」を掲げて、アンチ・グローバリズムに走っています。アメリカはグローバリズムの旗振り役だったのですが、今はそれに反対する方が、自分の大統領選に有利だと判断しているからです。

●もう一つ忘れていけないのは、コロナから逃れるために、世界各国で独裁制が強まっていることです。欧米では緊急事態宣言に逆らう行動をすれば、罰金、逮捕と、公的権力が強まっています。日本は世界各国から中途半端と言われているが、宣言にそぐわない行動をしても、罰則はありません。

●先日、安倍さんと会った時、どうして罰則規定を設けないのか、と聞いたら、「戦前の教訓から、日本には、個人の意



金もうけ至上主義がコロナ騒動の元凶、と田原さん

思尊重が大事という考えが根底にあるからだ」と答えました。田原自身も、この考えは正しいと考えています。ただし、安倍さんには、お客さんが来ない店には、きちんと補償する、減収の人には30万円を出す方法は煩雑だからやめて、国民一人一人に10万円を出した方が言いと助言しました。そして全員に10万円支給になりました。

●今、一番怖いことは、世界各国とのつながりがなくなることです。アンチ・グローバリズムとアンチ・デモクラシーの風潮は、世界各国と仲良くしないとやっていけない日本にとって、致命傷になりかねません。だから私は、安倍さんに、「日本はグローバリズムを捨ててはならない。金もうけのグローバリズムではなく、健康のためのグローバリズムを進めなさい」と言いました。

## ● 近江商人の「三方良し」の気持が、世界を救う

●私は、グローバリズムを進めることに賛成です。日本は欧米と比べれば、まだ貧富の差が小さい。私の祖先は、近江商人ですが、近江商人には、「三方良し」の考え方があります。買い手、売り手、社会の三つに喜ばれる商売をしなさいというものです。これは貧富の差ができないようにして、競争に勝利したものは、敗れた人の面倒を見るというものです。

●この前、京都大学山中伸弥先生と会った時、先生は、あと10年経つと、あらゆる癌は治るようになるので、日本人は120歳にまで生きることができるようになる。2035年の平均寿命は、100歳になるというのです。年金、介護、定年、医療はどうするのかと、さまざまな課題はどうするのか。人生100年時代の人生設計に、取り組まなければなりません。



今こそ「近江商人」の考え方が必要、と田原さん

●1989年、世界のトップ50社に、日本企業の32社が入っていました。ところが2018年は、トヨタ1社だけという衰退ぶりです。現在進行している第4次産業革命に、日本は乗り遅れています。なぜ日本は衰退しているのか。それは日本の経営者がサラリーマン社長で、冒険しないからです。また社員も、上から命じられるままに動くから、不正の温床ができやすく、本当のことを言えない企業風土になっているからです。人工頭脳の研究もろくにしていません。

●トヨタ、パナソニックなど大手企業の研究所は、アメリカのシリコンバレーにあります。日本は年功序列の会社経営

だから、外国人は、日本にやってきません。有能でも若い人の賃金は安いし、日本の経営は失敗を許しません。シリコンバレーで実績を上げた日本の若手も、本社とのギャップが大きいから、帰国せずアメリカに定住するケースが後を絶ちません。

●だからこそ、コロナ騒動は、日本の体質を一変させられる大きなチャンスなのです。日本の経営者の中には、日本の将来に危機感を持ち、新たなビジネスチャンスを開こうとしている人もいますが、なかなかできない。そこで私は、大企業の社長、経団連の会長、経産省の官僚たち、自民党の有望株らに呼びかけて、日本再生のプロジェクトチームを作りました。どのような結論、結果が出るのか楽しみにしています。

●今の政権が問題なのは、官僚統治の仕組みです。高級官僚の人事は、内閣人事局が決めるから、彼らは首相官邸の顔色を窺っての行政しかしません。その端的な例が、森友問題で名前が出た佐川宜夫だろう。彼は安倍さんをかばうために付度し、嘘八百を語りました。そのために、部下たちは公文書改ざんをせざるを得ませんでした。安倍さんは、改ざんしろとは言っていませんが、籠池と昭恵夫人のツーショット写真が財務省に送られた時、籠池が言う「神風が吹いた」のです。佐川は、森友を推進しないと自分を守れないと、改ざんに手を染めたのでしょうか。

## ●小選挙区制が、「安倍一強体制」をつくってしまった

●桜を見る会も、ひどい話です。昔の自民党なら、党内から注意をしたはずですが、今はみんなが安倍さんの真似をして、後援会のメンバーを「見る会」に招待しています。さすがに今年は、やっていませんが。

●なぜ安倍さんに忠告できないのか。それは、小選挙区制のせいです。執行部のご機嫌を損じたら、公認をもらえませんが、選挙をできません。党内で冷や飯を食っている石破さんに、どうしたら「安倍一強体制を打破できるか」と聞いたことがあります。石破さんは、以前のような中選挙区制に戻せばいい、と言っていました。では、選挙制度を変えられるか？現実には、与野党とも、現在の小選挙区で当選した現職の国会議員だから、改革しようとは思っていません。

●山本七平さんが言っていたことですが、日本人がやっていけないことは、「空気を破ること」。だから、付度という言葉、考えが横行しているのです。緊急事態宣言が出た後の世論調査で、安倍内閣の取り組みがいい、と答えたのは33%、よくないのは57%でした。それでも安倍政権は6回も選挙に勝っています。なぜか。それは野党に政権を奪った後の明確な政

策が示されていないからです。経済政策のアベノミックスは、とくに破綻しているのに、野党には対案がありません。防衛政策もありません。これでは政権は取れません。

●日本の安全保障は、アメリカに従属しています。安倍さんには、日米地位協定を改定したらいい、と言ったら、安倍さんは「そうする」と言ったのですが、外務省から「米国防省が反対しているから、やめてくれ」と釘を刺されたので、改定はできない、と言うのです。

●日程左様に、日本は全てが負のスパイラルにはまっています。私は共産、立憲民主、国民民主の三党で、安保政策を作るように言い、三党とも合意しています。

●コロナ騒動は1929年の世界経済恐慌を上回る恐慌を引き起こすことは必至です。だから、これをバネにして、日本は再生して欲しいのです。トランプ、習近平、プーチンの三巨頭は、安倍さんと話し合いたがっています。ここで日本がリーダーシップを示せば、世界の評価は激変します。危機こそ好機なのです。

## 塾長と田原さんが対談

●女性の力、活用を! **塾長**

●きちんと情報公開を **田原さん**

田原さんの講義が終わった後は、下村塾長との対談に入り、2人は白熱した議論を展開しました。以下はその時のやり取り概要です。

**田原** コロナは、国際協力がなければ解決できません。金もうけのグローバリゼーションは駄目だけれど、きちんと情報を公開してやっていけば、解決できるはずですよ。

**下村** フィンランド、台湾、アイスランド、ニュージーランドなど、女性がリーダーになっている国のコロナ感染は、少ない。やはり女性の力を活用しないと、国の発展はない。コロナ感染は、男社会の限界を示していると言えます。でも、日本で女性の政治家が少ないのは、一般的に彼女たちは、あまりにも権力固執型からでしょう。つまり、男性型の女性が多い。だから女性の支持も少ない。

**田原** コロナを機に、日本でも諸外国のような強い拘束力を持った非常事態宣言を、きちんと整備すべきだという声が出始めているが、安倍さんは、日本国憲法を改正するつもりはない、と私に打ち明けています。党是として掲げているから言っているだけというのです。

**下村** コロナが一段落した後の世界は、どうなるでしょう？

**田原** 安倍さんは、民主主義、国際協調を全世界に向けて発信する。これが一番です。真のグローバリズムを打ち出せ



男社会の限界を露呈したのがコロナ騒動、と塾長

ばいいのです。安倍さんの任期は2021年9月までです。4選はないし、今取りざたされている人が自民党総裁に就く可能性はないと思います。かつて松下幸之助さんに会った時、どんな人物を引き上げたいと思うか、と聞いたことがありました。松下さんは、「難しい問題に遭遇した時、楽しくやれる人物」を引き上げたいと言っていました。今は、コロナという難問に直面しています。こんな時こそ、前向きに立ち向かっていきたいと思っています。どんな時も、前向き、ポジティブな生き方が大切だと思う。



会場となった「あつまる」の会議室。豪華設備と広いスペースがすごい